



## 問 日常の買物が困難な買物弱者に対する取り組みは

高齢化や核家族化が進んでおり、運転免許証を返納し、自由に買物に行けなくなる高齢者等が今後さらに増えることが予想される。また、食料品等の日常の買物では、実際に自分の目で見て商品を選びたいというニーズには根強いものがある。そうした買物弱者の声と移動販売等を行っている民間の力とのマッチングを実現するための取り組みは。

## 答 今後も地域の支援ニーズを把握し、地域課題の解決に取り組む

高齢者等に対する生活支援サービスの提供体制の整備に向けた取り組みを推進するため、津市社会福祉協議会へ委託し、配置している生活支援コーディネーターが中心となり、老人会、民生委員などからの相談をはじめ、地域ケア会議や地域福祉関係団体などで構成される協議体に参加して買物支援に関する地域課題を把握し、地域の支援ニーズと民間企業等によるサービスのマッチングを行っており、移動販売が導入された地域もある。

今後も、地域の支援ニーズの把握に努め、買物支援をはじめとする地域課題の解決に取り組んでいく。

### その他の質疑・質問

- 特殊詐欺の被害の実態と高齢者の詐欺被害防止について
- 買物弱者に関し、デマンド型交通の導入など、運転免許証返納後の交通手段の考えは
- 津市の空き家の現状、管理不全の空き家に関する苦情や相談への対応は。また、空き家の予防と啓発の取り組みは

▶  
買物弱者のための移動販売の様子



## 問 津市の農政の今後の方向性を問う

今後の津市の農業の方向性について、農業者を中心に令和版営農会議等で議論されているが、米生産に限らず、農業全般に係る政策の方向性は。

また、栗真町屋町では、農業委員を中心に国の補助金などを得て経営方法を転換しようと長年努力しており、そのような農地に関する取り組みに対しては、行政から何らかのサポートがあっべきと考えるがどうか。

## 答 耕作放棄地の防止や営農を継続できる環境づくりを進める

「耕作放棄地の防止」「持続的な営農体制の強化」「獣害・虫害から農地を守る」をテーマに、令和6年度から営農継続に資する独自支援を開始したところであり、今後も国の制度を活用しつつ、畑地を含めた農地の耕作放棄の防止や農業者が引き続き営農を継続できる環境づくりを進めていく。また、例えば、農業者団体などが高収益作物の生産団地の整備を計画し、一団のまとまった農地を借り受け、または取得し、高度化した施設整備を行うことで地域の農業の発展につなげていくような場合には、計画策定や資金面におけるサポートを行う。

### その他の質疑・質問

- フェニックス通り駐車場の売却について
- アスト津の経営について
- 津市の危機管理体制について
- 新型コロナウイルス感染症の治療費等について
- 各課発注業務のうち、測量設計に関わる最低制限価格の設定について

▶  
今後の津市の農業の方向性は

